

ペレーターが、散布ムラや散布対象農地以外への飛散が極力発生しないよう、細心の注意を払いながら実施された。飛散が予想される周辺の有用作物については、事前にブルーシートをかぶせることによって薬害の発生防止に努めた。

宮城・福島両県における無人ヘリ用ラウンドアップの散布面積は、2011年12月から2012年11月までの1,225haをピークに徐々に減少している。これは農地復興が着実に進んでいることの証でもある。

現在、無人ヘリ散布で培われたラウンドアップ® マックスロードの少量散布技術は、10a 当たり 5L 散布を可能にした ULV5 技術へと進化を遂げた。ULV5 は日々の農家の除草作業をより安全で省力的なものへと劇的に改善する試みとして注目を集めている。

## おわりに

「松島は笑ふがごとく 象潟はうらむがごとし」と、芭蕉が松島と一雙の屏風絵のようにその美しさを讃えた象

潟の島々は、文化元年（1804年）の大地震による隆起で水田に浮かぶ森や丘へと姿を変えた。日本の農家は巨大地震や台風など天変地異の脅威に常にさらされながらも、自然災害による壊滅的な被害を幾度も乗り越え耕作を続けてきた。日産化学は創業者・渋沢栄一らが掲げた設立理念「利農報国」を胸に刻みながら、常時も非常時も日本の農家と農業に寄り添っていく覚悟である。

### 田畑の草種

#### 屁糞葛・糞葛・屎葛・早乙女花・やいと花（ヘクソカズラ）

アカネ科ヘクソカズラ属の蔓性多年草。全国の日当たりの良い藪や山野、公園、空き地、家の庭先などで普通。樹木や藪やフェンスに絡みついている。葉は蔓性の茎に対生し広卵形。夏に白い漏斗形で中心が紅紫色の1cmほどの花を多数つける。秋から冬には直径6mmほどのべっ甲色の実が塊になっていくつも付く。

和名が与えられた草種では悪名の代表格である。古くは糞葛・屎葛（くそかずら）と呼ばれ、平安時代にその上に「屁」がついた。「名は体を表す」とおり、果実をはじめ全草に特異な臭気がある。この臭気はメルカプタンという有機化合物で、ヘクソカズラの葉などを揉んだ時に酵素反応を起こして放たれる。スカンクの屁も同じで、天然ガスの臭い付けなどにも使われるような臭気である。

在来で万葉の時代から周りに臭気をまいていたようである

（公財）日本植物調節剤研究協会  
兵庫試験地 須藤 健一

が、万葉集に「臭気」を詠った歌はない。それよりも屁糞葛の生活力のたくましさ<sup>たかみやのおおきみ</sup>を詠う。巻の16、高宮王の歌。

さう莢<sup>けふ</sup>に延<sup>は</sup>ひおほとれる屎葛<sup>くそかずら</sup>絶ゆることなく宮仕へせむ

「さう莢」に、這い、巻き付きながらどこまでも広がっていく「屎葛」のように、途絶えること無く宮仕えしていこうと言う、公務員の鏡のような高宮王であり、思いである。この「さう莢」、ジャケツイバラという蔓性の木本で、高さは2mほどであるが蛇がとぐるを巻いたように広がる。しかも茎や葉軸の裏に鋭い逆刺を持つ。この高宮王、自らを悪臭のある「屎葛」と卑下しながら、しかも刺刺しい「宮仕え」ではあるが倦んだりせずに、どこまでも宮仕えをしていこうと詠うのである。昨今の公務員の禍禍しき行い。爪の垢ならぬヘクソカズラの「垢」を煎じて飲ませたいものである。ちなみに、ヘクソカズラは、乾燥させて漢方生薬として利用される。